

横浜市がん対策の今後の進め方について

「横浜市がん対策の今後の進め方」の策定にあたり、市民意見募集を実施しましたので、その実施結果と主な意見についてご報告いたします。

1 横浜市がん対策の今後の進め方（素案）に関する市民意見募集の実施結果

(1) 実施概要

ア 意見募集期間

平成 28 年 1 月 15 日（金）から平成 28 年 2 月 15 日（月）までの 32 日間

イ 意見募集の周知

(ア) 素案の概要の配布（2,200 部）

〈配布先〉

区役所（区政推進課広報相談係）、市民局市民情報センター、
がん診療連携拠点病院等（12 か所）、小児がん連携病院（2 か所）、
がん診療連携拠点病院以外の市立病院・地域中核病院（2 か所）、医療局

(イ) 横浜市ホームページ

(ウ) 広報よこはま 1 月号

ウ 意見提出方法

持参、電子メール、ファクシミリ、郵送

(2) 意見募集結果

ア 意見提出状況 提出者数 109 人、意見数 145 件

提出方法	提出者数	項目別	意見数
持参※	82 人	がんの予防	24 件
電子メール	25 人	がんの早期発見	38 件
ファクシミリ	1 人	がん医療	22 件
郵送	1 人	相談支援・情報提供	33 件
合 計	109 人	がんと共に生きる	20 件
		がん登録・がん研究	8 件
		合 計	145 件

※持参には、イベント、会議、医療機関での回収を含みます。

イ 提出された意見への対応

項 目	意見数
①意見を踏まえ、素案を修正し反映したもの	0 件
②素案の趣旨にご賛同いただいたもの	32 件
③素案の修正までには及ばないが、個別事業・取組に対する意見として参考とさせていただいたもの	113 件
合 計	145 件

市民意見募集の結果については、後日、ホームページなどで公表します。

(3) 主な意見の内容とそれに対する考え方

ア 素案の趣旨にご賛同いただいたもの【32件】

主な意見の内容	意見に対する考え方
<p>【がんの予防】 ○現在、がんは死因のトップで予防が重要と考えます。 ○若い世代からの健康的な生活習慣をつけさせるための教育、広報が大切です。</p> <p>など、「がんの予防」に関する意見（4件）</p>	<p>がんなどの生活習慣病の予防に重点をおく「第2期健康横浜21」計画において、「食生活」「運動」等の生活習慣の改善とがん検診、特定健診の普及等の生活習慣病の重症化予防にライフステージ別の行動目標を設定し取組を進めていきます。 小学校では、体育(保健領域)で、病気の予防についての学習があります。また、児童の成長に合わせた保健指導を実施しています。今後も望ましい生活習慣を身に付けられるような健康教育を進めていきます。</p>
<p>【がんの早期発見】 ○会社勤めの会社員以外の市民(専業主婦・高齢者)への、検診サービスの一層の充実を期待します。 ○早期発見により、その後の本人負担、社会保障資源の負担軽減を目指すべきだと思います。</p> <p>など、「がんの早期発見」に関する意見（5件）</p>	<p>特定年齢の方への無料クーポン券の送付、無料クーポン券の対象でない方には、がん検診の重要性をお伝えするなど、がん検診への関心が高まるような個別勧奨通知により、受診者数の増加を図ります。 また、女性の受診率向上に向けた取組として、無料クーポン券の対象でない方には、受診歴や年代に応じて、案内の内容を変えた通知文等を送付して受診率の向上を図ります。 さらに、60歳代全ての市民を対象に、「横浜市がん検診ガイド」を送付し、個別に受診勧奨を行うなど、がんの早期発見に向けて、がん検診の取組を進めていきます。</p>
<p>【がん医療】 ○緩和ケアが受けられる病院、施設をもっと増やすべきではないか。 ○がんの痛みはこわいです。がんの痛みのコントロールが、病院でも在宅でも、患者さんのために適切に行われるよう、医療関係者の教育を頼みます。</p> <p>など、「がん医療」に関する意見（7件）</p>	<p>緩和ケア病棟整備費の補助等により、病棟を増やす取組をしています。 緩和ケア病棟だけでなく、様々な場面で緩和ケアの提供が受けられるよう、緩和医療の充実に向けた取組を進めていきます。</p>
<p>【相談支援・情報提供】 ○患者同士で相談できる場がどこにあるのか、今かかっている病院では教えてくれませんでした。どこで相談が受けられるのか、時間や場所など情報提供の充実を望みます。 ○小児がんに関する相談窓口がわかりにくい。ため、制度や学習支援のことなど、幅広く情報提供をしてほしい。</p> <p>など、「相談支援・情報提供」に関する意見（10件）</p>	<p>がん診療連携拠点病院等にあるがん相談支援センターでは、ピアサポートや患者会に関する情報提供を行っています。 小児がん連携病院として4病院を指定し、そのうちの1病院(神奈川県立こども医療センター)に小児がん相談窓口を設置しています。 相談窓口の周知のほか、情報提供の充実を進めていきます。</p>
<p>【がんと共に生きる】 ○働き盛りの世代ががんにかかった時、治療に専念するため退職してしまうケースが多いと聞いています。元のような生活に戻ることは至難であるため、就労支援のより一層の充実を期待します。</p> <p>など、「がんと共に生きる」に関する意見（6件）</p>	<p>社会保険労務士による仕事と治療の両立支援やハローワークと連携した就労相談を行っています。 働く世代の方ががんになっても安心して働き続けられるよう、取組を進めていきます。</p>

イ 素案の修正までには及ばないが、個別事業・取組に対する意見として参考とさせていただいたもの【113件】

主な意見の内容
<p>【がんの予防】 ○がん対策は喫緊の課題なので、行政が主導して対策をされることには賛成ですが、対策の中には、運動や栄養、飲酒や喫煙といった本来個人が自ら選択することができるライフスタイルに関わる部分もあります。がん対策だけを偏重するのではなく、個人のライフスタイルも尊重された運用をお願いします。 ○予防で早期に対応できるのは喫煙防止対策だと思います。駅周辺などの禁止区域だけでなく、市内路上を全面禁煙にし、罰金を取るなど強化したら良いと思います。</p> <p>など、「がん予防」に関連した意見（20件）</p>
<p>【がんの早期発見】 ○働く世代のがん検診の受診率を上げるために、個人の意識はもちろん大切ですが、企業が社員に受診を勧めるような仕組みが必要だと思います。また、健康診断の管理(社員がちゃんと受診しているか)を企業がしっかりとやることで、がんの予防になると思います。 ○検診項目の中に、腫瘍マーカーやPET検査による検査項目も加えて欲しい。唾液からDNAの情報を読み取り、遺伝的傾向を知ることができたり、1滴の血で早期がんを発見できたり、息を吐くだけで肺がんなどを早期に発見できる診断法など、負担を軽減できる検査の導入を検討して欲しい。 ○ヘリコバクターピロリ菌検査の推進、抗体検査またはABC検診による胃がん高リスク群の把握。陽性者、高リスク群に対して、胃内視鏡検査、除菌を行うことにより胃がんの減少につながると考えられる。</p> <p>など、「がんの早期発見」に関連した意見（33件）</p>
<p>【がん医療】 ○免疫療法薬であるニボルマブ(オプジーボ)が、悪性黒色腫に続き、2015年12月より肺がんに適応拡大となりました。頭頸部がん、腎細胞がん、その後の多くのがんへ適応が拡大されていくと思われれます。「免疫療法」について、言及することを提言いたします。 ○病院の機能分化を進めていき、それぞれ得意ながんについて、治療実績がトップレベルになれば、市民の治療が東京などに流出することなく、市内病院で完結すると思いました。</p> <p>など、「がん医療」に関連した意見（15件）</p>
<p>【相談支援・情報提供】 ○どの病院がどのがんに強いのか、わかるようにして欲しい。 ○遺族のケアを行う場がないので、闘病中のみならず遺族のサポートも出来る体制が必要だと思います。</p> <p>など、「相談支援・情報提供」に関連した意見（23件）</p>
<p>【がんと共に生きる】 ○延命措置をするのかどうか、といったことだけでなく、病状によってどこまで対応するのか、何を決めておく必要があるのか、ということが情報として判りやすく得られればと思います。 ○非正規雇用者のがん治療は、制度の後ろ盾がほぼない。有給休暇すら確保されない。 ○高齢者のがんは、あまり見つけられない方が良いのではないかと。 ○高齢者の場合、あえて「病氣と闘わない」という選択をすることなど、家族間でお互いの意見や考えを確認する場を持つ事が求められる。</p> <p>など、「がんと共に生きる」に関連した意見（14件）</p>
<p>【がん登録・がんの研究】 ○がん登録のデータを使って、各病院の特色などをアピールしてはどうか。 ○第4の治療法として、細胞免疫療法や遺伝子治療など、低侵襲で副作用も少ないことなども注目されています。免疫細胞療法や、遺伝子治療、遺伝子診断に関する正確な情報発信と、研究開発を支援する施策の実現を希望します。</p> <p>など、「がん登録・がんの研究」に関連した意見（8件）</p>

2 今後のスケジュール

3月中旬：横浜市保健医療協議会による審議、3月末：答申

3 横浜市がん対策の今後の進め方の概要【別紙】